
渋谷橋

鹿の子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

渋谷橋

【Nコード】

N4073P

【作者名】

鹿の子

【あらすじ】

冬の日のカップルの物語。

変わる街並み、そして自分たちは。自サイトでも公開中。

冬の歩道橋は寒い。

北風が下から吹き上げる。

だいたい、歩道橋なんてショウガクセイの使うものだと思っ
たわよ。

二十五過ぎた女が、何が悲しくて夜の歩道橋を上がったり下が
たりしなきゃいけないの。

なあんて、一人でぶちぶち心で愚痴る。

だったら行かなきゃいい。

あんな奴の所へなんて。

両手にスーパールの袋をガサガサ言わせながら、こんなところ来な
きゃいい。

むっと口がへの字に曲がる。

そもそもあのスーパーが無くなったのがいけない。

駅からあいつの家に行く途中のスーパーが、いつの間にかお洒落
な食べ物屋さんに変身した。

だから、わざわざ少し遠いスーパーに行って、再びあいつの家ま
で仕切り直さなきゃいけない。

不機嫌なのはそのせい。

スーパーのせい。

上りきった歩道橋からは、夜の恵比寿の街が見える。

山手線が走っていく。

ビルの上のネオンが光る。

下を走る車のランプが、道にすつと線を描く。

すっかり、お洒落になってしまったこの街に私たちだけが取り残
されたようだった。

この街に来るようになって何年なんだろう。
あいつと知り合った時からだから。五年？

毎年毎年、街は変わる。

驚く暇を与えない位の速さで、この街は変わっていく。

そんなことを思いながらも、突然できる空き地を見ても、そこに
ついこの間まであった建物が思い出せない。

結局は、薄情な私たちだった。

「ばあちゃんが小さい頃は、路面電車が走っていたらしいよ」

今はもう亡くなられたあいつのお祖母ちゃんが、いつもそう話して
いたそうだ。

それが本当かどうかなんて、改めて確かめる事はしなかった。

何でもかんでも、真実を知ればいいって事では無いという事を年
と共に段々と知ってきたから。

『そういう事にしておこう』っていうのも、一つの選択肢だと知
ったから。

正しければいいのか？

No！

幸せになるのがいいのだ。

少し長くなった前髪が顔にかかってきた。

両手が塞がっていて、何も出来ない。

ガサガサとビニール袋の、ちっともお洒落じゃない音が響く。
都会の、少し赤く染まる夜空の下。

星が申し訳程度に見える空の下。

あいつが住んでる空の下。

「理佐！」

あいつの声がする。

ひよいと下を見ると、あいつが満面の笑顔で立っていた。
弾むように、軽やかに。

あいつが歩道橋を駆け上がってくる。

「よお」

「『よお』じゃないわよお」

「ちわ！」

「『ちわ』でもないでしょ！」

「げんか」

「はぁ？」

「『痴話げんか』だって言ったんだよ」

その言葉と一緒に、両手が軽くなる。

「行くよ」

人が重い思いをして、両手で持っていた袋をあいつは軽く片手で持っている。

軽くなった両手。

「ほら！ 理佐！」

差し出された右手。

ふっと、心が軽くなった。

照れくさくて、あいつの右手をはたいちゃう。

「いてっ！」

そして、今度は 思いっきり自分の腕をあいつの腕に絡める。

「じゃ、今回はそういうことで手をうつわ」

「理佐。おまえ、力強すぎ。手の平がじんじんするよ」

間近で見るあいつの顔も、少しどこか照れている。

つきあって五年にもなるのに、こういうところお互いちっとも馴れないまま。

喧嘩のたびに不安になって。

喧嘩のたびに仲良くなって。

「なあ、今日の飯、なあに？」

「鳥ひき肉の団子鍋」

「それは、凄く嬉しいんだけど。この白いの何？」

「えのき」

「罰ゲーム、ですか？」

「そうです。全部食べてね」

「努力します」

困ったあいつの横顔が、歩道橋を降りるたびに揺れている。

ガサガサガサガサ。

袋の中でえのきも揺れる。

鳥のひき肉も揺れている。

おまけに白菜だって揺れ出した。

ガサガサガサガサ。

これがいつもの、二人の仲直りの合図。

どんどん変わるお洒落な街で、ちっとも変わらない私たち。

それは、この歩道橋だけが知っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4073p/>

渋谷橋

2011年10月8日12時26分発行